

# SEISEKI

聖蹟人

Take  
Free

空を見上げよう。  
次の物語と出会うために。  
舞台は聖蹟桜ヶ丘。

#2

日本アニメーションの  
イラストレーターに聞く

## “聖蹟桜ヶ丘の風景”が 創作の源になっているわけ



### 空、丘、季節の移ろい。聖蹟桜ヶ丘から“世界”を描く

「日本アニメーションは昭和50年、多摩市で創業しました。私が働く本社スタジオは多摩市和田にあり、ここで『あらいぐまラスカル』や『赤毛のアン』『母をたずねて三千里』『フランダーズの犬』などの『世界名作劇場』シリーズをはじめ、『未来少年コナン』や『ちびまる子ちゃん』を制作。これまで多摩の地から多くのアニメーションを発信してきました」

穏やかな口調でこう話すのは永見夏子さん。『あらいぐまラスカル』を中心に、同社で形にとらわれない癒しの作品を多く手がけてきたイラストレーターだ。「古くから住んでいる方はご存じかもしれませんが、当時、和田には日活の撮影所があり、その隣にアニメーシ

ョン制作スタジオが設立されました。昔を知る先輩から『俳優の誰々さんがうちの会社にトイレを借りに来た』とか『怪獣の着ぐるみらしきものを見た』とか、そんな話を聞いたことがあります。多摩の映画文化の一端を担ってきた街、その源流に聖蹟桜ヶ丘があったと言えるかもしれませんね」

『フランダーズの犬』から始まる日本アニメーションの『世界名作劇場』シリーズの初期の作品には、高畑勲氏・宮崎駿氏が携わったものが多くある。

「日本アニメーション在籍時の宮崎さんたちスタッフは、聖蹟桜ヶ丘周辺をよく歩いて回ったそうです。後々、スタジオジブリでご活躍されるわけですが、ジブ

リ作品の『耳をすませば』は聖蹟桜ヶ丘周辺が舞台になったと言われています。今でも多くのファンの方が世代を超えて聖地巡礼に訪れています。入社後、私も会社周辺をよく歩きましたが、このまちでしか感じるできない雰囲気があると、強く感じました」

入社23年、永見さんは聖蹟桜ヶ丘でしか味わえない風景と多く出会ってきた。「雪化粧された丘を見つめたり、風の温度や空気の匂い、季節の変化に気づいたりするときに、自然そのものの存在感を感じることがあります。こういう感覚は、空調管理されたオフィスやビルの間を移動する生活に浸かっていると気づきにくいもの。毎日の微細な変化や自然の

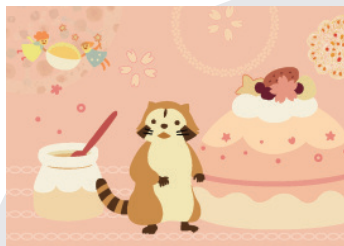
聖蹟桜ヶ丘駅から歩いて15分。『世界名作劇場』シリーズをはじめ、夢と感動いっぱいのアニメ作品を生み出してきた日本アニメーションに勤める永見さんに、聖蹟桜ヶ丘とアニメの蜜月について聞いてみた。

Interview: Yumi Noda / Interview, Text: Akira Andoh



SEISEKI  
PEOPLE

1



© 日本アニメーション



© 日本アニメーション



© 日本アニメーション



© 日本アニメーション

## 永見夏子作品集「あらいぐまラスカルと多摩」

上左：せいせき桜まつりに合わせて描いた作品。「いちごのスイーツは丘の形を意識して描きました」上右：丘のささやき。「多摩に生息しているような精霊とラスカル。精霊たちは、道端の植物や自然を観察しているうちに増えていきました」下左：ラスカルとさくらぼし。「さくらぼしは桜ヶ丘に舞い降りた流れ星のイメージ。満開の桜と夜空の星を掛け合わせて生まれた妖精です」下右：雪見。「雪化粧された桜ヶ丘を初めて見た時に感じた神聖さを描いた作品です」

息吹に鋭敏になっていくにつれ、こんな感覚を絵で表現したい、ラスカルを介してなら描けるかもしれない、と思うようになっていきました。始めの頃はラスカルという動物のキャラクターを自分の絵柄に入れることがとても難しかったのですが、試行錯誤を続けるうちにこういう感覚を大切にできるようになっていきました。それからは少しずつ、ラスカルのいる世界を描くということがどうしたことなのか理解できるようになり、楽しくなってきました」

笑顔を覗かせながら、こんな話も。「美術さんはよく会社の屋上に行って空を観察していました。世界名作劇場のような作品を、遠くの国の出来事ではなく私たちの物語と感じてもらうには、現地でロケハンをして、それをただ紙の上に

写すだけでは足りないのだと思います。私たちが自然をどのように感じるのか、それを分かっていると、物語世界を作り上げることはできません。世界中の景色を描き、物語世界を描くことができたのは、日本アニメーションが聖蹟桜ヶ丘という自然が豊かで、人々の温もりもある場所にあったからではないかと思っています」

### アニメーションで描かれる多摩とは？

バルテノン多摩で2015年に実施した特別展「アニメーションと多摩」の展示図録。「多摩とアニメーションの関わりを深く知ることができる一冊」と永見さん。



### 日本アニメーション

1975年6月の設立以来、「世界中の子どもたちに夢と感動を…」というモットーを大切に、『世界名作劇場』シリーズや『ちびまる子ちゃん』など、幅広い世代に愛され続けるアニメーションコンテンツを創出する総合エンターテインメント企業。企画管理部門は銀座、制作スタジオは多摩市和田。多摩市と連携・協働し、聖蹟桜ヶ丘駅周辺を中心に地域活性化の一環として、子どものための映画祭「ラスカル子ども映画祭」なども企画運営。



公民館のような場所を作りたかった。

# 民間で挑戦！ 旧鎌倉街道から始まる、 みんなの居場所

和風の建物と芝生の広場が印象的な「けえどの会所」。ここでいま、自由でクリエイティブな地域の交流の場が育っている。

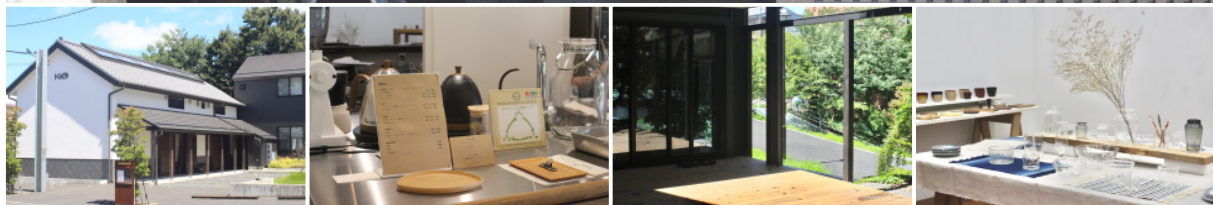
Interview: Yuki Matsuo / Interview, Text, Photo: Tamaki Onda

SEISEKI  
PEOPLE 2



## 小林攻洋さん

稲城市役所に入所後、生涯学習、商工振興などの仕事に関わり、定年退職後、市民活動の中間支援の活動を通して協働のまちづくりに携わる傍ら、いなぎエコ・ミューゼなどの自主グループを立ち上げるなど、多方面で活動中。



## ワクワクを原動力に、目指すのは地域の“コモン”

「けえどの会所」はさまざまな顔を持つ。キッチンを備え、カフェとしても利用できる「茶の間」ではワークショップや持ち寄りパーティーが開かれ、木漏れ日デッキではBBQも楽しめる。「gallery 匣 -hako-」ではアート作品の展示だけでなく、映画の上映会なども行っている。地元の人々にひらかれた文化的な施設、という点では公民館にも似ているが、オーナーの小林攻洋さんいわく、けえどの会所は「もっと大らかで、飲み会だっ

てできるような場所」だ。

「まちの“コモン”になりたい。場所があって、人が集まって、知り合って、何かが起きる場所にしたいんです」

小林さんが影響を受けた人物に、まちづくりの伝道師として知られる延藤安弘氏がいる。彼は、ヒト・モノ・コトが出会う場所を「まちの縁側」と呼ぶことを提唱。小林さんもけえどの会所を「まちの縁側」にすべく、「けえどの会所」をレンタルしたい人には説明会に参加して

もらってコンセプトを伝え、賛同する人が会員となる決まりだ。これまでに35名ほどが会員（けえどの会所連）になった。さまざまなスキルを持つ人が集まり、新たなコラボレーションが始まる繋がりができつつある。

今年82歳を迎える小林さんの原動力は、「他人のためというよりも、自分がウキウキ、ワクワクするから」。「面白いと感じるからやってみる。そうすると結果的にはみんなも楽しくなるんです」。

そう語る小林さんの目は少年のようにきらめいていた。

# あれ気になる!! 歩いて見つけた セイセキの「珍光景」

Interview: Haruna Takasaki / Interview, Text: Chika Ito



2004年に「有限会社 CHOKO.group」として関戸2丁目に開業。社内には着ぐるみのスクールで使用  
する着ぐるみたちが並ぶ。カーテンから顔を出すのは会社のマスコットキャラクター「ちょこくま」。



## 「着ぐるみ」看板の真相調査!

聖蹟桜ヶ丘駅の東口を出て少し歩くと黄色の「着ぐるみ」と書かれた看板が現れる。この看板の先に広がるのは「CHOKO.group」という着ぐるみの演技指導をするスクールや着ぐるみの製作を行う会社。代表の大平長子さんが着ぐるみ役者をしてきた経験から若い着ぐるみ役者を育てるためのスクールを日本で初めて立ち上げた。「着ぐるみの仕事の魅力は、着るだけで色々なものになれる、子どもたちの笑顔を間近で見ることができること」と大平さん。聞けば、着ぐるみたちは多摩地域の公共施設や公園などに出張することも。スクールの生徒でなくても月1回のグリーティング体験ツアーで、着ぐるみの演技練習と人前での披露ができるとのこと。聖蹟桜ヶ丘発「着ぐるみ文化」で子どもたちの笑顔を生み出し続けている素敵な会社なのでした。

京王聖蹟桜ヶ丘  
SC 便り

せいせき  
みどころ展  
開催中!



今回紹介するのは…  
京王電鉄 SC 営業部  
木村優斗

せいせき  
京王聖蹟桜ヶ丘ショッピングセンター

子どもたちの視点でみた聖蹟桜ヶ丘周辺の魅力はどこにある? こんな着想のもと、京王聖蹟桜ヶ丘SCでは2021年秋から毎年、「たまキッズのせいせきみどころ展」を開催しています。2023年の開催日は10月13日から10月29日(各日10時~17時)、場所はA館6階アウラホールです。今年は参加する小学校が1校増え、東寺方小学校、蓮光寺小学校、多摩第一小学校、多摩第二小学校の児童の皆さんが参加。まちの歴史や商店街マップ、地域の自慢できるところなど、さまざまな視点で手づくりのレポートを作ってくれます。同展示には作品を出品した児童のご家族だけでなく、地域に住む皆さんも多くご来場いただいております。展示した作品は後日、「せいせきおさんぼmap」として編集・配布し、毎年ご好評いただいています。子どもたちの目線で切り取られる聖蹟桜ヶ丘の魅力をこの機会に多くの方に知っていただければと思います!



写真は全て2022年の様子 写真上: 京王聖蹟桜ヶ丘ショッピングセンター A館6階アウラホールで開催。中: 多摩・聖蹟桜ヶ丘周辺のみどころが詰まった手づくり作品が盛りだくさん。下: 作品展の終了後、「せいせきおさんぼmap」を制作。配布はSC館内ラックほか



### 美術ひろば タネノス

📍 多摩市聖ヶ丘 2-22-3-2

🕒 カフェ営業時間：日～金 11:00～18:00  
(17:00LO)、土 11:00～20:00 (19:00LO)

定休日：木と5週目

※営業時間など季節によって変則的です。  
お問い合わせください。

☎️ 042-401-8590

<https://www.tanenosu.com>

## 大人も子どもも楽しみながら自己表現！ 隠れ家的な美術ひろば、 タネノスをご存じ？

2022年秋、聖ヶ丘商店街にクリエイティブなスペースが誕生したという情報をキャッチ。大らかな空気感漂う、素敵な美術教室に行ってみた。

Text: Kaori Shibuya / Photo: KAEDesign

### いろいろなタネが安心して大きく育つ場所

「聖ヶ丘商店街に小さな居場所の巣のタネを蒔きました。いろいろなタネが安心して大きく育つ場所になったら嬉しいです」

笑みをこぼしながらこう話すのは初田珠里さん。彼女は「美術ひろば タネノス」の美術講師でもある。

「タネノスは美術教室でありカフェであり画材店でありギャラリーであり、まとめますと、タネノスへ来るすべての人が自己表現や美術を楽しめる『美術ひろば』です。クラスには決まったカリキュラムはなく、その日その時創りたい物・描きたい物を楽しむことができます。それは、

自分の中にある、何かキラキラした物を掬い上げて欲しいからです。私たちはアートを根っこにいろんな人の居場所ができるのでは？と考えているんです」

100人いれば100個の違う花が咲く。その花には100通りの楽しみ方がある。こんな思いを大切にするとタネノスでは、子どもたちはもちろん、引率できた親御さんにもファンが多く、子どもも大人も等しくアートを楽しんでいる。今回、この撮影を担当したKAEDesignさんもそんなひとり。

「駅から離れていても、緑が多くてリラッ

クスできるような場所で美術ひろばを開きたいと考え、聖ヶ丘を選びました。多摩丘陵の豊かな緑の環境の中、子どもも大人も楽しみながら自己表現できる場所に感じてもらえたら、私は心から嬉しいです」

教室には、一杯ずつ丁寧にハンドドリップで淹れたコーヒーを楽しめるミニカフェ『茶の巣』や小さな画材店『ひきだしの巣』のほか、ギャラリーも用意。期間毎にプロの作家作品の展覧会を行っている。

美術を感じながらゆっくりコーヒーでも飲みながら、自己表現してみては？

SEISEKI  
PEOPLE 3

Photo: Yu Kobayashi, Tamaki Onda

## あなたは早起き派？ 夕暮れ派？

聖蹟桜ヶ丘エリアのちょっとマニアックな「朝日」スポットといえば、連光寺にある「八坂神社」。ご存じでしたか？こちらは天王森公園内にあり、地元の人たちに愛されてきた初日の出スポットで〈多摩市最高地点 標高 161.7m〉という看板があることから分かるように、多摩市で最も高いところにあります。春から夏、中秋の頃までは樹木が生い茂っているので、地平線から朝日が昇ってくる様子を見ることはできませんが、落葉する晩秋から冬頃になると朝日を望むことができます。ゆっくりと沈んでいく夕日を眺めたい人は「都立桜ヶ丘公園 ゆうひの丘」へどうぞ。ゆうひの丘という言葉どおり、多摩エリアでトップクラスのスケールで夕日を堪能することができます。これからの季節、空気が澄んで朝日や夕日がキレイに見られるチャンスが増していきます。ぜひ訪れてみてください。



朝日



夕日

子育て、地域とのつながり、  
大人のコミュニティ……

## 「聖蹟桜ヶ丘 これからの考える」 ふたりにリッスン!

河上さんは『Brillia Tower 聖蹟桜ヶ丘 BLOOMING RESIDENCE』の自治会長。来嶋さんは多摩市在住で、大規模マンションを主な活動の舞台とし、マンションに暮らし始めた人たちのコミュニティ形成を支援する会社の代表。立場は異なれど、聖蹟桜ヶ丘愛に満ちたふたりがいま考えていることは？

来嶋「2022年秋から入居が始まり、河上さんがお住まいのタワー棟には現在、520世帯（取材時点）の方が暮らしていますね」

河上「居住者の皆さんには、新たな暮

らしを始めながら、聖蹟桜ヶ丘への愛着を育んでもらえたらと思っています。私も期待に胸を膨らませている住人のひとりです」

来嶋「プランニングディレクターとしての私の役目は、居住者の皆さんが緩やかにつながり合うためのきっかけづくりと、聖蹟桜ヶ丘や多摩エリアの多彩な魅力をお伝えすることです。うちの主人公はお住まいの皆さんなので、『聖蹟桜ヶ丘に住んで良かった』と思っていただけたら嬉しいです」

河上「来嶋さんには今年2月から毎月2回、さまざまなプログラムを企画してもらっていますね。今夏、プロのネイチャーガイドさんを招いて行った

『多摩川サンセットウォーク&高尾山の魅力紹介』は好評で、子どもたちの笑顔が印象的でした。マンション内のパーティールームを利用して行った日本酒交流会も良かった（笑）」

来嶋「聖蹟桜ヶ丘の魅力は本物の自然があるところ。居住者の皆さんには暮らしを楽しみながら、地域とのつながりを育んでもらえたら嬉しいですよ」

河上「そうなれるように、地域との関わりを大切にしていきます。聖蹟桜ヶ丘の魅力、たくさんありそうな気がしています。これから、外に向けて発信できるような“まちの魅力”を探していこうと思っています」

〔左〕ブリリアタワー聖蹟桜ヶ丘  
ブルームングレジデンス自治会 自治会長  
河上俊郎さん

〔右〕デザインショップまぢや  
プランニングディレクター  
来嶋洋介さん





夢は三者三様、共通する想いは「WE love SEISEKI」

## 「地域の資源をみんなで活かしたいね」会議

誌上!

Interview, text: Chika Ito / Photo: Yu Kobayashi

「豊かな地域資源のある聖蹟桜ヶ丘、どんなことをしたら今よりもっと盛り上がる？」というテーマのもと、「ケトルドラム」店主の棚沢正義さん、「せいせき庭ふえす」主催者の尾崎政和さん、シンガーソングライターの池田敦也さんに集まってもらい、誌上会議を開催。名づけて、地域の資源をみんなで活かしたいね会議、スタート！

聖蹟桜ヶ丘は音楽のまち  
持続可能なイベントを！

— 聖蹟桜ヶ丘の魅力は？

棚沢「フレンドリーな方が多い気がします」

尾崎「親同士の繋がりもあってとても住みやすく、豊かに暮らせるところですね」

池田「ゆるやかに地域住人たちが繋がりが合うまち。僕はこんな印象を持っています」

棚沢「ゆるやかという言葉はしっくりきます。商いをするもの同士、丁度いい距離感で繋がっている気もします」

尾崎「お店同士がコラボして、何かをやることや呑みに行き来するような関係性は、聖蹟桜ヶ丘ならではのですね」

池田「まちの住人とお店との距離が近いところも聖蹟桜ヶ丘らしさかなあ。僕が引っ越してきたのは3年前で、少し経って『せいせき音フェス』に誘ってもらいました。聖蹟桜ヶ丘にある飲食店がライブ会場になるっていうコンセプトは良いなって思いました」

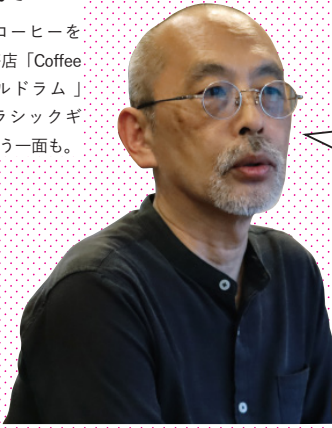
棚沢「聖蹟桜ヶ丘を音楽で盛り上げたいという想い、素晴らしいですね。2022年の『せいせき音フェス』にはケトルドラムも参加させていただきました」

— 多摩市と音楽の関係性はどんなところに感じますか。

棚沢「『せいせき音フェス』という存在はもちろん、ケトルドラムにも音楽好

## 棚沢正義さん

音楽と本とコーヒーを  
楽しめる喫茶店「Coffee  
House ケトルドラム」  
の店主。クラシックギ  
ター奏者という一面も。



私が音楽を通じて  
多くの方とつながりを持っているのは、  
自らが演奏者であるからと  
自負しています。

まちの暮らしを題材に  
多摩川の流れに乗せて全国へ。  
多摩川河川敷を利活用した  
イベントを立ち上げてみたい。

あのイベントに行ったら  
「また、あの人に会える！」  
継続性・持続性を視野に入れた  
お祭り、作りたいな。



## 尾崎政和さん

聖蹟桜ヶ丘に住むご近所の庭を借り、子ども  
たちが主役のお祭り「せいせき庭ふえす」主  
催者。職業はパイロット。2023年は10月28  
日(土)に「庭ふえすハロウィン」開催を予定。

## 池田敦也さん

フォークデュオ「TOKYO TOWN SHALALA」  
のヴォーカル&ギター担当。都内ライブハ  
ウスを中心に精力的に活動中。

きの方に集まってくださっています。常  
連客には多摩市在住の方が多く、音楽活  
動をしている方も多くいる印象を持って  
います」

池田「多摩市はバンドマンが多い印象で  
す。都心に比べて家賃も手頃だし、新宿  
や下北へのアクセスの良さも理由のひと  
つだと思います」

— 今回の会議のテーマは「地域の資源  
をみんなで活かしたいね」です。聖蹟桜ヶ  
丘で今後やってみたいことはありますか。

池田「多摩川が好きなので、ちょっとした  
野外フェスみたいなことが出来たら楽  
しいなと思います」

尾崎「新しいイベントを立ち上げることも  
素晴らしいと思うけれど、継続性・持  
続性も大事ですよ。その場所に行けば  
『あの人に会える！』みたいな。僕自身は  
そういうイベントに惹かれます。どこに  
でもあるようなお祭りを河川敷で行うの

もありかもしれません。盆踊りみたいな」  
池田「多くの人を巻き込んで長い目で開催  
できるようなものがあつたらいいですね」

— ご自身の強みはどんなところにある  
と思いますか？

棚沢「強みとまでは言えないけれど、お  
客様との繋がりがあるので音楽を通した  
仲間を紹介できるかもしれません」

池田「僕は聖蹟桜ヶ丘に住んでいる人  
に限らず遊びに来てくれる人を増やせ  
るかなと思っています。秋ごろにそうい  
うイベントを聖蹟桜ヶ丘で行う予定なん  
です。なにか開催するのであればイベ  
ントや主催者だけが盛り上がるのではなく、  
その街のお店に立ち寄ってもらい、街に  
還元できる仕組みを作ることが大事だ  
と思います」

尾崎「そういうシステムがあると『うち  
も出店しようかな』となりますよね。私  
の強みですか？『やりたい！』と思ったら、

突き進むところかもしれません。『せいせ  
き庭ふえす』をやってみましたから(笑)」  
池田「今日お話できたことがまた何か繋  
がっていきと良いですね。聖蹟桜ヶ丘は  
それが出来るような街だと思います」



## Coffee House ケトルドラム

📍 多摩市関戸 2-24-10

🕒 12:00 ~ 17:00 定休日：日・月・祝

☎ 090-9105-2664

<https://kettledrum2021.wixsite.com/cafe>

# セイセキ歴史 Walk

## #2 神社と例大祭

“まちへの愛”を育む例大祭をとおり、次の世代にバトンをつなげたい。

武蔵国（むさしのくに）開拓の祖神である「天下春命」を主神としてお祀りしたのが始まりとされる「武蔵一之宮 小野神社」。創建の年代については諸説あるが、平安時代編纂の『延喜式神名帳』

に記載されている「武蔵国多磨郡 小野神社」ではないかと推測される社だ。そう、小野神社の歴史は遙か昔にさかのぼるのだ。

生まれも育ちも多摩市一ノ宮、現在責任役員を務める小暮和幸さんが話す。

「文献を辿っても辿りきれないほど、小野神社には先人たちが積み重ねた歴史があります。私たちができることは次の世代に小野神社の歴史を伝え、地域と深く関わる例大祭のような祭りを毎年きちんと行っていくことだと思っています。私自身、小さな頃から小野神社の例大祭に親しんできましたから」

聞けば、小暮さんがまだ小・中学生だった頃は、夏休み中、同世代の子どもたちが集まって祭礼の準備をしていたそう。

「当時と令和になった今とでは神社に対する考え方に

ついて変わった部分もあるかもしれないけれど、地域の人と人との繋がりを育む場所として神社は今も変わらず、大切なところだと思っています。責任役員を務めていると、一ノ宮周辺に住む人たちとの関係性が深まりますし、ほかの地域の人たちとの繋がりも生まれます。こういう視点でみてみると、やりがいはあると思います」

「武蔵一之宮 小野神社」の2023年の例大祭の開催は9月9日と9月10日の二日間。取材時は開催まであと8日。「事前に準備することはまだ多くありますが今から例大祭が楽しみです。若い世代の人にも多く参加してほしいですね」



写真左から責任役員の、杉浦宏さん、小暮和幸さん、佐伯裕治さん



### 武蔵一之宮 小野神社

古代の武蔵国の歴史を伝える、一ノ宮1丁目に鎮座する古社。武蔵国「八座」と呼ばれる神社の一社に数えられる。

## 例大祭レポート

### 川崎街道、駅前交差点を巡行

9月10日、例大祭当日。11時から小野神社例大祭式典が行われ、渡御説明、鏡割りを経て、14時、太鼓と神輿、山車の編隊が宮出。宮下通り、京王電鉄本社前を経て、駅前交差点を右折して川崎街道へ。駅前交差点を渡り、一ノ宮商店街、杉浦自動車を経て、川崎街道の小野神社入口交差点を左折し、岡田工務店前で宮神輿の宮入準備。日暮れが迫る18時、「武蔵一之宮 小野神社」に宮神輿宮入へ。道中、沿道の歓声を含め、熱気に満ちた巡行となった。



聖蹟桜ヶ丘には先人たちが長い歴史を重ねながら、信仰してきた由緒正しき神社がある。

去る9月9日と9月10日の二日間に渡って行われた例大祭の様子もリポート！

## 子どもから大人まで多くの人の笑顔が原動力になっています。

時は室町時代。延徳元(1489)年に創立し、天明六(1786)年、関戸と貝取の境であった当地に、当時の名主・相澤源左衛門休郭(五流)が願主となって「熊野三社宮」として建立したとされる「関戸 熊野神社」。都内で唯一、桃の神様をお祀りする社として知られ、今も変わらず関戸の氏神として信仰を集めている神社だ。

総代を務めるのは岨克彦さん。関戸で生まれ育った生粋の関戸っ子だ。「初詣や節分祭追儺式、厄除大祭など、関戸熊野神社には年中行事が多くありますが、2週間後に控えた例大祭は特別です」と話す岨さん。そのわけを尋ねると、「地域の皆さんが一丸となって事前準備を

含めて熱を込めて行います。当日は江戸神輿愛好会『関戸睦』の方々を中心となって神輿巡行を行い、山車は『関戸囃子保存会』の方々を中心となり、例大祭を盛り上げてくれます。総代をしていると、ほかの地域の人たちとの親交も深くなっていくんです。そういう面白さがありますね。父親も総代をやっていたので、まだ関戸に田んぼが多くあった頃から私にとって例大祭は身近な存在でした」

聞けば、例大祭の当日は“おもてなしの精神”を持つことが大切とも。裏方に徹して担ぎ手の労をねぎらうことこそ、岨さんが考える関戸流のおもてなしだ。「関戸の例大祭は、多摩ニュータウンの開発で関戸熊野神社付近に遷座した金毘羅宮と九頭龍神社との三社で行っています。ですので、当日は三社お祓いをした後、宮出しから宮入りまで皆、それぞれの持



ち場で孤軍奮闘しています。その時間こそ、やりがいがあって楽しいんです。子どもから大人まで多くの人の笑顔を見ることが出来る日まであと2週間、やらないといけないことはたくさんあります」

Interview: Yuko Kohnno



### 関戸 熊野神社

旧鎌倉街道に面した山の中腹にある神社。普段は静かだが年中行事になると多くの地域住人で賑わいをみせる。

### 九頭龍神社を經由し、再び関戸熊野神社へ

関戸熊野神社、九頭龍神社、金毘羅宮の順に三社お祓いをした後、熊野神社で太鼓と神輿の準備を開始。宵宮・本祭で登場したのは昭和53年建造の宮神輿と、平成6年建造の山車。関戸睦と関戸囃子保存会が中心になり、13時に宮出。小山酒店、大栗橋商店会を経て、聖蹟桜ヶ丘駅からほど近い距離にある九頭龍神社で休憩。大栗橋商店会、小山酒店を経て、17時10分に宮入。戸囃子保存会による賑やかなお囃子が担ぎ手や沿道にいる人たちの盛り上げ、熱のこもった巡行となった。



Photo: Yu Kobayashi

# ひと足早く「サクテラスモール」を体験してみた。

2023年度  
順次開業予定!



## リバーサイドヨガ、ラテアートに初挑戦!

いま、2022年秋に入居がスタートした「Brillia Tower 聖蹟桜ヶ丘 BLOOMING RESIDENCE」を皮切りに、多摩川に隣接する駅の北側エリアの盛り上がり期待が高まりはじめている。商業棟「サクテラスモール」の開業、駅徒歩5分という地の利の良さを追い風に、リバーサイドを舞台に賑わいが生まれようとしている。

今号ではひと足早く、セイセキ ZINE 編集部が「サクテラスモール」でできることを体験してみることに!

話を聞いてみると、こちらの商業棟には7つのテナントが入る予定で、まずは「RIVER PARK 聖蹟桜ヶ丘」へGO。地域の自然を活かしたウェルネスプログラ

ムを展開するアウトドアフィットネスクラブで多摩川でリバー SUP やリバーサイドヨガなどを楽しめるとのこと。ポルダリングジムや会員制ワークラウンジなども併設し、インドアとアウトドアのハイブリッドな会員制クラブになるそう。インストラクターの指導のもと、実際にヨガの体験をしてみると、鳥の声や川のせせらぎが心地よく耳に入り、自然豊かな環境が日常にあるんだなあと、納得。「次は、ガルーダ アーザナをやってみましょうか」

聞けばこちらは、肩甲骨や肩まわりの筋肉をほぐすポーズらしく、最初は「イテテテ〜」な感じだったけれど、次第

に心身ともにリラックスしてくる。エネルギーチャージしていく感覚を味わいつつ、聖蹟桜ヶ丘の魅力を再認識。いい感じだ。「全長 138km の多摩川は、貴重な植物、湧き水やアユ、湿地など、豊かな自然が広がっているんです。聖蹟桜ヶ丘でも、季節によってさまざまな多摩川の変化を味わうことができるんですよ。地域の自然の魅力を多くの人たちに感じてもらえたらなあと、私たちは思っています」

ヨガレッスンの終了後、インストラクターによるこんな言葉を聞くにつけ、アウトドアフィットネスを通して地域の魅力を知ることができそうだったのです。



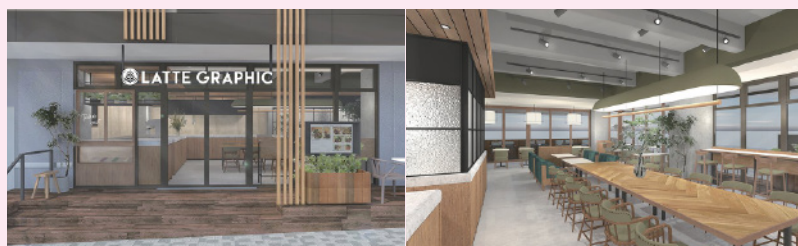
### RIVER PARK 聖蹟桜ヶ丘

スタジオヨガ、ピラティス、ポルダリングから、多摩川のリバー SUP、外ヨガ、ウォーキングまで。会員になると多摩川を一望できるワークラウンジなど、施設内外で多彩なサービスを提供。

家族のさまざまな幸せに寄り添う「サクテラスモール」が  
間もなくオープンという情報をキャッチ。

どんなお店が入るのかしら？ 小誌の市民ライター、大学生が体験してみた。

Interview: Haruna Takasaki / Interview, Text: Chika Ito, Tama University Matsumoto's Seminar (Hayato Ohta, Riki Niitsu)



次に訪れたのは「LATTE GRAPHIC」。オーストラリア・メルボルンのカフェ文化にインスパイアされたオールデイダイニングで「サクテラスモール」での出店を含め、全6店舗を展開。どの店も心温まるおもてなしからファンが多く、バリスタが常駐しているのでいつ行っても美味しいコーヒーを味わうことができるとのこと。「聖蹟桜ヶ丘の印象は、素朴で優しいまち。自然豊かなところも魅力だなあと感じ、出店を決めました。地域に根ざしたお店として、愛される店づくりをしたいですね」

こんな風に話してくれたのは「LATTE GRAPHIC」代表の保志さん。「今日はラテアートワークショップの参加、ありがとうございます！」

こんな言葉を頂戴し、ラテアートに初挑戦（有料）。ラテアートとはエスプレッソにミルクを注ぎ、カップの表面に絵柄や模様などのアートを描くこと。ミルクを使って表面にアートを施したカフェラテ、こんな表現がしっくりきそうだ。

最初にお手本を講師の方に実演してもらい、ラテアートの基本を教わる。カップを45度で持ち、円を描くようにミルクを注いでいくところまではなんとかできたけれど、フチまで水位がきた瞬間、カップの角度を水平にするところがムズかしい。結果、何杯も練習。貴重な初体験を味わうことができました。

聞けば、ほかにも魅力的なお店がさまざまにラインナップされるという「サクテラスモール」。いまから楽しみです！

## LATTE GRAPHIC

オセアニアスタイルのカフェ文化を日本で味わうことができるカフェダイニング。モーニングからディナーシーンまで充実のメニューを揃える。



## サクテラスモール

2023年9月から順次開業予定の3階建ての商業施設。RIVER PARK 聖蹟桜ヶ丘、LATTE GRAPHICのほか、ゴルフスクール、個室プライベートサウナ、東京都認証保育園等が出店予定。

※掲載のサクテラスモール外観完成予想イラストは、計画段階の図面を基に描き起こしたもので、行政官庁の指導、施工上の都合により外観・仕様等が変更になる場合があります。

# 聖蹟桜ヶ丘かわまちづくり計画を起点とした

## 一般社団法人 聖蹟桜ヶ丘エリアマネジメント、発足！

### 地域の知恵と力を集めた 共創の街づくり

地域にお住まいの方をはじめ、就業、就学、来訪された方など、この街に関係するあらゆる方にとって、川のある豊かな日常や活気ある街の実現を目指し、2023年9月11日、「一般社団法人 聖蹟桜ヶ丘エリアマネジメント」が設立されました。

対象地域は聖蹟桜ヶ丘駅周辺。地域が有する個性を活かし、地域の価値を高める街づくりを進めるには、地域に関わる方たちの主体性と一体性を持った取り組みが不可欠。「街の個性をいちばん知っているのは地域そのもの」という想いのもと、本エリアマネジメント団体を構成する桜ヶ丘商店会連合会、京王電鉄、東京建物が中心となり、地域の知恵と力を幅広く集め、他団体・行政とも連携しながら、街づくりの実行チームとして活動します。

主な事業として、「聖蹟桜ヶ丘かわまちづくり計画」（「かわまちづくり計画」は河川空間とまち空間が融合したにぎわいある良好な水辺空間の形成を目指すまちづくりの取り組みで、多摩市も2020年3月に国土交通省へ登録）を起点とし、公共空間の運営・管理事業、ブランディング・情報発信事業、コミュニティ・デザイン事業、聖蹟桜ヶ丘駅周辺の魅力向上につながるエリアマネジメント事業など、ハード・ソフト・情報発信の連携を意識した活動を進めていく予定です。

### せいせきカワマチ、 （多摩川河川敷芝生広場） 利用予約受付中！

地域の皆さまの人気投票により、多摩川河川敷芝生広場・キッチンカースペースの愛称が「せいせきカワマチ」（サイン等で使用する表記は「せいせきカワマチ（多摩川河川敷芝生広場）」に決まりました。

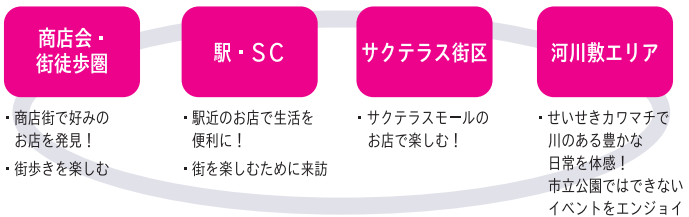
近年、エリアマネジメントという、住民や事業者、地権者等による主体的な取り組みが各地で進められている。

聖蹟桜ヶ丘でもエリアマネジメント団体が発足。その取り組みとは？

### （一社）聖蹟桜ヶ丘エリアマネジメントの事業



### かわまちづくりでの賑わいを街全体に広げていく



（一社）聖蹟桜ヶ丘エリアマネジメントの設立総会時のひとコマ。共創の街づくりへの決意が確認された。

### 賛助会員を 募集中！

（一社）聖蹟桜ヶ丘エリアマネジメントは会員組織です。本団体の目的や活動に賛同する企業または団体、個人の入会を広く募集しています。

2023年10月14日、「せいせきカワマチ」に新しく整備された芝生広場・キッチンカースペースの共用が開始されます。従来の市立公園では難しい、販売などの収益事業を伴うイベントが実施可能で、本団体が、このスペースのイベント等の受付・運営管理を行っていきます。現在、この「せいせきカワマチ」を活用してイ

イベントや出店をされたい方を広く募集しています。

#### 【問い合わせ先】

一般社団法人 聖蹟桜ヶ丘エリアマネジメント  
MAIL : seiseki@keio.co.jp  
HP : <https://seiseki.org/>

芝生広場・キッチンカースペースの利用に関するお問い合わせは上記メールアドレスまで。ホームページにて本団体に関する情報を確認できます。

# 管区長に聞く、京王電鉄と聖蹟桜ヶ丘

## 心と心が結ばれる そんな施策を増やしたい

京王西管区の管区長として現在、東京の西側、聖蹟桜ヶ丘駅から京王八王子駅、北野駅から高尾山口駅、高幡不動駅から多摩動物公園駅の全 15 駅の運営・管理の統括をしています。管区長の仕事は、約 80 名の管区員（駅員）のマネジメントや警察・消防をはじめとした地域の関係者の皆さまとの渉外対応などがメインですが、管区員がモチベーションを高く保って仕事に打ち込めるような雰囲気づくりも大事にしています。この駅を利用するお客様が、何を求めているのか。いま、この駅に足りていない部分はどこにあるのか。こんな視点を尊びながら、それぞれの駅がそれぞれ独自に、地域のコミュニケーション・ハブになれるように毎日、試行錯誤を重ねています。

駅はまちの象徴だと考えます。駅を利

用する方、周辺エリアに住む方に愛着を持っていただくためには、毎日お客様に安全で気持ちよくご利用いただけるきめ細かなサービスをお届けしなければなりません。安全・正確に列車を運行することが鉄道マンの第一の使命ですが、ゆるやかな繋がりを求められる時代にあっては、ふとした瞬間に心と心が結ばれるような取り組みが大切だと思っています。駅にあるブラックボードをご覧ください。各駅の管区員が自主的に季節や催事に合わせ、ブラックボードに手描きでイラストやメッセージを書いています。聖蹟桜ヶ丘駅でも時折設置しておりますので、ぜひご覧ください。

京王電鉄本社がある聖蹟桜ヶ丘駅には私自身、かつて駅付近にあった社員寮に住んでいる同僚のもとに遊びに行ったり駅周辺で飲み歩いたりするなど特別な思い出があります。沿線の中でも特に「京王線らしい駅」ではないでしょう

か。子どもから大人、ご年配の方まで幅広くお住まいで、商業拠点としても充実し、少し歩くと自然もたくさんあります。今後いっそう、京王線を象徴するようなエリアになったら嬉しいです。



### 猪野寛次

鉄道営業部 京王西管区 管区長。京王電鉄に 1986 年入社後、駅係員や車掌、運転士、営業企画課、乗務区長などを経て、現職。モットーは、自ら率先して仕事を楽しむこと！

## 市民ライター募集中！

京王電鉄と情報誌『BALL.』を発刊するけやき出版は共同で、聖蹟桜ヶ丘の街の魅力を取材・発信し、地域の価値創造を目指す取り組みのひとつとして、市民参加型ローカルマガジンの発行を開始しました。本誌は、聖蹟桜ヶ丘「People」ガイドをテーマに、毎号 1 つのテーマを決め、聖蹟桜ヶ丘エリアと所縁のある「人の想い」にフィーチャー。本誌では、有志の市民ライターとして聖蹟桜ヶ丘の“街の魅力”を深掘りする方々を広く募集しています。

### 〔 問い合わせ先 〕

けやき出版

TEL : 042-525-9909 (平日 9 時～18 時)

MAIL : e-info@keyaki-s.co.jp

## まちの掲示板、始まります！

本誌では次号以降、聖蹟桜ヶ丘のエリア情報を適時、掲載していきます。地域内で開催するイベントの告知や、開催したイベントの事後レポートなど、聖蹟桜ヶ丘を舞台とした「まちの掲示板」としての誌面スペースも用意していきます。

### 編集後記

『セイセキ ZINE #2』の発行にあたり、有志の市民ライターの皆さまをはじめ、多くの市民の方々のご協力を頂戴しました。この場を借りて改めて、感謝申し上げます。今号のキックオフは 2023 年 7 月 5 日、夏真っ盛り。そんな時期から市民ライターの皆さまと編集会議を重ね、長い時間をかけて、誌面づくりを進めていきました。季節は移ろい、夏から秋へ。道中、地域ゆかりの神社で例大祭も開催、セイセキ愛に満ちた方々と多く接する機会にも恵まれました。次号の発行は 2024 年 3 月頃を予定しています。草木が芽吹きはじめる頃、またお会いしましょう。

### 市民ライター

安藤さん、伊藤千夏さん、大橋徹平さん、恩田環さん、河野裕子さん、小林ゆうさん、澁谷かおりさん、高崎晴菜さん、多摩大学松本祐一ゼミ（太田隼人さん、新津力さん）、野田由美さん、松尾友起さん、KAEDesign さん



### セイセキ ZINE とは？

セイセキ ZINE (セイセキジン) は毎号 1 つのテーマを決め、聖蹟桜ヶ丘エリアと所縁のある「人の想い」にフィーチャーする、市民参加型ローカルマガジンです。多摩市在住の有志の市民ライターを募り、セイセキ愛に満ちた誌面づくりをしています。